

病院では何を検査するの？

ドライマウスは何が原因になっているかをよく調べる必要があります。
原因によって治療の方法が違ってきます。

丁寧な問診

問診は病気の原因を知るための重要な情報です。

唾液の検査

唾液の量の検査（ガムを噛むなど簡単な検査です）
エックス線検査（唾液腺の状態をエックス線やMRIで確認します）



口唇生検

局所麻酔をして下唇の内側から小唾液腺を摘出し、検査します。

シルマーテスト

涙の量の検査（シェーグレン症候群の検査として行います）

その他

体の病気を調べるために血液検査などをする場合があります。

どうやって治療するの？

基本的にはつらい症状をできるだけ早く取り去っていくようにします。
痛みがある場合は、まず痛みを取り、少し落ちついてから乾燥感について対処します。

唾液の分泌を増やす

薬を使って唾液の量を増やします。（セビメリン塩酸塩、ピロカルピン塩酸塩、漢方製剤）



唾液腺を刺激する(唾液腺刺激療法)

ガムを噛む、硬い食べ物を摂る、味覚で刺激する、口の周りの筋肉トレーニングをする など（咀嚼、味覚による刺激、筋機能療法）

粘膜疾患への対処

うがい（含嗽）薬、軟膏、飲み薬（抗真菌薬）で粘膜のトラブルに対処します。



歯科的治療

良く噛めるように歯の治療をする、唾液が減ってむし菌や歯周病になりやすいので治療やクリーニングをする など

カウンセリングや心身医学的アプローチ

粘膜の保湿

保湿剤を配合した洗口液・ジェル・スプレー、人工唾液、抗菌スプレー、保湿装置（モイスチャープレート）、部屋の保湿 など



* ドライマウスの原因となっている病気がある場合は、その治療が優先です。
薬の変更や減量には十分な注意が必要ですから、主治医によく相談しましょう。
必ずしもドライマウスの原因を除去できない場合もあります。

Q4

舌の表面がぶつぶつしていますが異常でしょうか？

A.4

よくみると舌にはいろいろな構造があるので、癌などの病気ではないかと心配になることも多いでしょう。自分の口の中はあまりみたことがないので、突然心配になる場合もあると思います。

& 正常な舌の構造をお示しします。ご自分の舌と見比べてみてください。病気ではないということがわかると思います。

1) 舌乳頭

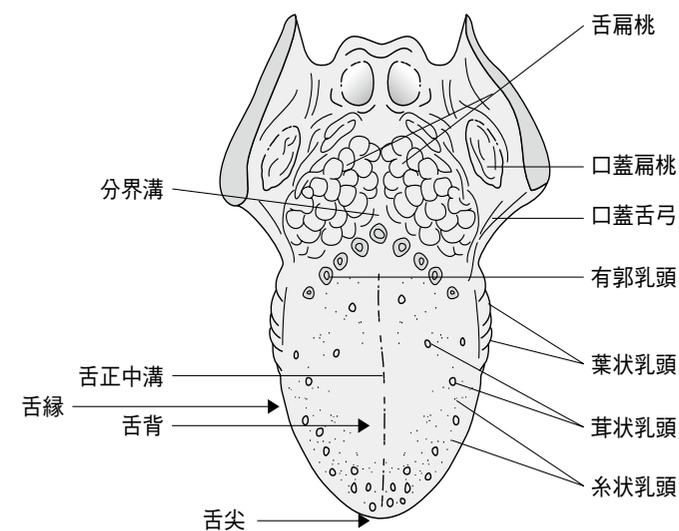
筋肉性の器官である舌の表面は粘膜に覆われており、粘膜は4種の乳頭で覆われています(図II-24,25)。

(1) 糸状乳頭

舌背一面に糸状乳頭があります。糸状乳頭は乳頭の中で最も数が多く、密な結合組織性の芯と厚い角化突起で構成されています。肉眼ではひげ状にみえます。

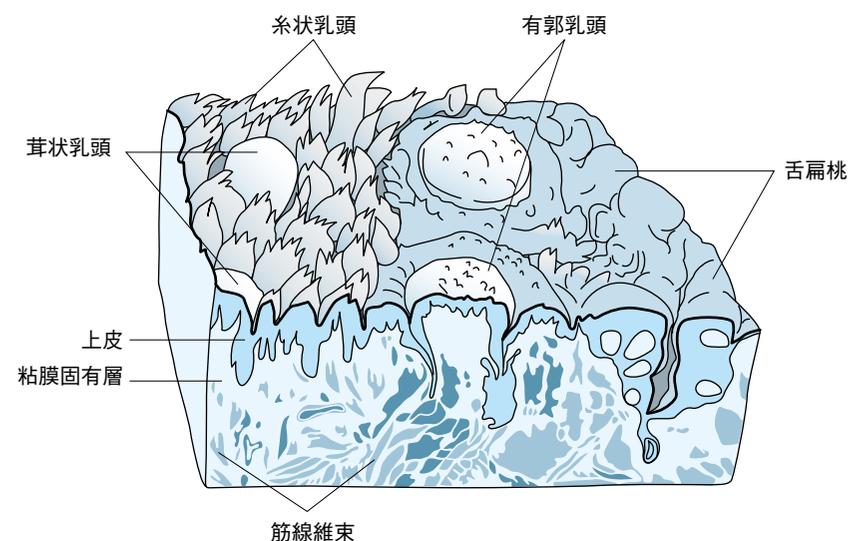
糸状乳頭は頂上が淡い白色なので、舌は全体的に淡い白色のようにみえるのです(図II-26)。

舌の色は血流の状態、舌苔の程度、舌乳頭の状態によって変化します。舌乳頭が萎縮し、舌苔が消失すれば舌の表面から白みがなくなり赤みが増します。糸状乳頭の角化が強く“ひげ”が長くなると舌が白くみえます。



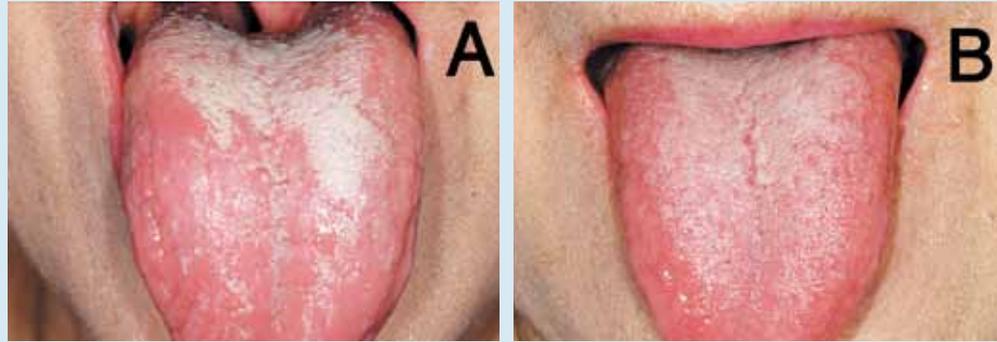
図II-24 舌表面の構造

(藤田恒太郎：人体解剖学. 南江堂, 1990より引用改変)



図II-25 舌乳頭の組織

(藤田恒太郎：人体解剖学. 南江堂, 1990より引用改変)



図V-21 唾液分泌低下に伴って出現したカンジダ症に対する抗真菌薬による治療

A：治療前の状態で、舌の発赤と部分的な舌乳頭の萎縮が認められる。
B：治療後は舌乳頭が正常状態に回復し、乾燥所見も減少している。

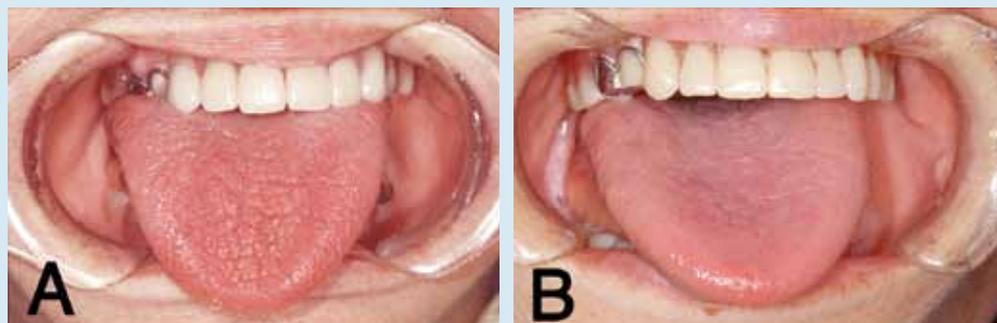
2) 乾燥感に対して

まず、原因療法が可能かどうか考えます。

ドライマウスの原因の特定が難しい場合や、原因がはっきりしていてもその解決が困難な場合も少なくありません。このような場合、ドライマウスへの対処は対症療法が中心になります。

具体的には口腔乾燥に対する口腔の保湿です。これに加えて、患者さん自身に努力してもらう唾液分泌刺激療法を行います(図V-22)。

口腔の保湿は、シェーグレン症候群には唾液分泌促進薬の適応があるのでそれを使い、シェーグレン症候群以外のドライマウスには保湿剤などを用います。



図V-22 シェーグレン症候群に対する治療

A：治療前の状態で、舌の亀裂、舌乳頭の萎縮、顕著な乾燥を認める。
B：治療後は舌の乾燥と亀裂が改善されている。口腔内の保湿を行うことによって、口腔粘膜上皮組織に潤いが戻ってきた。

Q12

ドライマウスの原因によって乾燥に対する治療方法が違いますか？

A12

ドライマウスを起こす原因疾患によって対処法が異なってきます。
同じ対処法を試みるとしても、どれを優先するかが違ってきます。



疾患別対処法として、以下のように分類して行っています(表V-3)。

表V-3 ドライマウスの疾患別対処法

	セビメリン	ピロカルピン	唾液分泌刺激	筋機能療法	歯科的治療	保湿剤	保湿装置	漢方製剤	カウンセリング
放射線治療	○*	◎	○		○	◎	◎	△	
SS**	◎	◎	○		○	◎	◎	△	
薬物性	○*	○*	○		○	○		○	○
全身疾患			○		○	○			
神経性	○*	○*	○	○	○			○	○
口呼吸				◎	○				
夜間乾燥				○	○	◎	◎		
筋力低下	○*	○*	◎	◎	◎			△	

* 保険適応はないが効果的なことがある
** シェーグレン症候群